

# [座長報告資料]

## 【第5期島根県竹島問題研究会第4回】

「東北アジア歴史財団」の動画『資料が語る歴史の真実』について

令和4年11月1日（火）下條

1. 『資料が語る歴史の真実』（日・英・中国語版）の公開、2021年5月～2022年2月
  - (1) 洪聖根氏「鬱陵島から眺める独島」
  - (2) 洪聖根氏「混乱の中で守られてきた独島」
  - (3) 崔雲燾氏「古文書と地図からみた独島」
  - (4) 崔雲燾氏「日本の文献からみた独島」、
  - (5) 金栄洙氏「日本の領土侵奪と大韓帝国の対応」
  
2. 動画『資料が語る歴史の真実』で論拠とされた文献と古地図
  - (1) 『世宗実録地理志』、『蔚陵島事蹟』、『三国史記』、『萬機要覧』、『東国文献備考』、『元祿九丙子年朝鮮舟着岸一卷之覺書』、『朝鮮国交際始末内探書』、『太政官指令』、『勅令第41号』等
  - (2) 『東国大地図』、『我国総図』、『三国接壤之図』
  
3. 動画『資料が語る歴史の真実』まで
  - (1) 外務省『竹島問題を理解する10のポイント』（2008年2月）
  - (2) 内藤正中氏『竹島＝独島問題入門 - 日本外務省「竹島」批判』（2008年10月）
  - (3) 内藤正中氏『韓日間の独島竹島論争の実体』（2009年2月）
  - (4) 東北アジア歴史財団『日本が知らない10の独島の真実』（2011年4月）
  - (5) Web 竹島問題研究所『韓国が知らない10の独島の虚偽』（2011年6月）
  - (6) 2011年2月、韓国教育科学技術部「小・中・高等学校独島教育内容体系」公表
  - (7) 「東北アジア歴史財団」、副教材『独島を正しく知る』編纂（2011年12月）
  
4. 『日本が知らない10の独島の真実』以後
  - (1) 『韓国が知らない10の独島の虚偽』、反論対象は歴史分野に限定
  - (2) 以後、韓国側では論点を近現代の鬱陵島に移行→再び論点を歴史分野に
  
5. 『資料が語る歴史の真実』の論点
  - (1) 鬱陵島からは独島が見える。『世宗実録地理志』（「蔚珍県条」）の誤読  
「于山武陵二島在縣正東海中〔分註〕二島相去不遠。風日清明則可望見（以下略）」
  - (2) 川上健三氏『竹島の歴史地理学的研究』（1966年）→誤解
  - (3) 「東北アジア歴史財団」の誤謬→「独島可視日数調査」（2008年～2009年）
  - (4) 池内敏氏『竹島 - もう一つの日韓関係史』（2016）→『世宗実録地理志』の誤読
  - (5) 『三国史記』「新羅本紀」智証王十三年条の論拠→『東国文献備考』の改竄